

学位論文の評価基準

修士論文の評価基準

修士論文の審査にあたって、次の点を考慮しながら評価を行う。なお、各分野における研究アプローチや特殊性についても考慮する。

1. 問題意識が明確で、課題設定が適切であること。
2. 先行研究が適切に検討・吟味されていること。
3. 事実調査・文献資料などの探索が十分にできていること。
4. 分析の切り口が明確で、論理展開が一貫していること。
5. 調査分析の内容の記述や展開が説得的であること。
6. 分析内容にオリジナリティがあること。
7. 引用等が適切になされ、論文としての体裁が整っていること。

(参考) 修士課程の教育目的

「修士課程は、広い視野に立つて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。」(大学院設置基準第3条第1項)

博士論文の評価基準

博士論文の審査にあたって、次の点を考慮し、特に6と7を重視しながら評価を行う。なお、各分野における研究アプローチや特殊性についても考慮する。

1. 問題意識が明確で、課題設定が適切であること。
2. 先行研究が適切に検討・吟味されていること。
3. 事実調査・文献資料などの探索が十分にできていること。
4. 分析の切り口が明確で、論理展開が一貫していること。
5. 調査分析の内容の記述や展開が説得的であること。
6. 当該分野の学問研究に貢献していること。
7. 分析内容にオリジナリティがあること。
8. 引用等が適切になされ、学術論文としての体裁が整っていること。

(参考) 博士課程の教育目的

「博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。」(大学院設置基準第4条第1項)